

富士山へと至る道

～登山絵図にみる信仰空間のいま・むかし～

富士市立博物館 井上卓哉

本日の内容

- はじめに
- 登山絵図とは
- 木版手彩色「富士山禅定図」
- 参詣者が見た信仰空間
- 「富士山禅定図」と参詣道中いま・むかし
- おわりに

はじめに

- 平成25年6月、富士山は世界文化遺産に登録される。
- その正式名称は、
-
- 登録と同時に重要な課題も
- 2016年2月1日までにイコモスへ保全状況報告書を提出
- 報告書の内容の一つに、「資産の全体ビジョン」を提示することが含まれている。
- 資産の全体ビジョン＝それぞれの構成資産が巡礼道および登山道とどのように関連しているのかということを明らかにする必要
- そのヒントの一つに「富士山の登山絵図」が

登山絵図とは

- 一般の庶民による富士山への登拝が盛んになった江戸時代以降、参詣のために訪れる道者の利便や誘客に供する目的で発行された案内図
- 富士山周辺の各登山道、周辺の宗教施設、名所旧跡、富士山へと至る道中などが描かれる
- 大量生産を前提として木版刷り
- 各登山の起点となる信仰施設や、それらと関係を持つ人びとが版元となり、発行される
- 発行元、発行時代によりさまざまな種類が

博物館で収蔵する登山絵図（表口）

No.	表題	版元	サイズ
1	富士山禅定図	駿州富士郡元吉原	46.1*63.4
2	(富士山表口絵図)	村山興法寺三坊か	33.2*44.0
3	駿河国富士山絵図（彩色無し）	村山興法寺三坊	31.3*40.2
4	駿河国富士山絵図（彩色あり）	村山興法寺三坊	32.5*41.5
5	駿州吉原宿絵図	吉野保五郎（文政10）	33.0*42.8
6	富士山表口真面之図	村山興法寺三坊	46.3*64.3
7	富士山表口真面之図	太田駒吉 (No.6の改版／明治13)	42.5*69.5
8	駿河国富士山表口全図	藤田興市郎（明治11）	48.5*66.0
9	富士山明細図	飯塚為吉（明治34）	37.0*46.7
10	(富士山立体絵図)	不明	高34*径75

No.1 富士山禅定図



No.2 (富士山表口絵図)



No.3 駿河国富士山絵図（彩色無し）



No.4 駿河国富士山絵図（彩色あり）



No.5 駿州吉原宿絵図



No.6 富士山表口真面之図（江戸期）



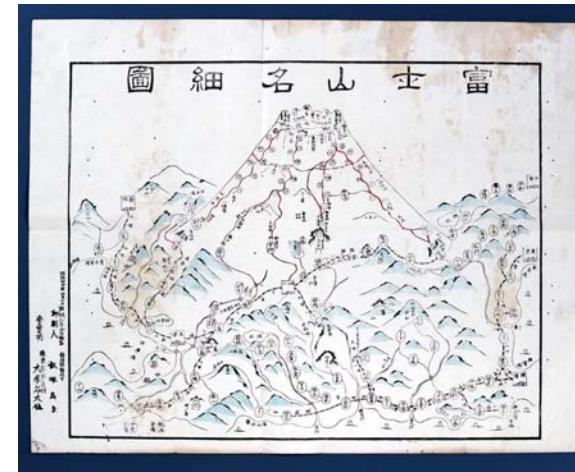
No.7 富士山表口真面之図（明治13）



No.8 駿河国富士山表口全図（明治11）



No.9 富士山明細図（明治34）



No.10 富士山立体絵図



木版手彩色「富士山禅定図」



「富士山禅定図」の記載事項①

- 仏尊名

開山役行者大菩薩
一千二百餘尊
八大金剛童子
五大明王五大力菩薩
八葉九尊
五智四菩薩

富士山出現の起源と異名	
仁王六代孝安天皇九十二庚申年湧出	■は王へんに余)
不老山	後山影向山
般若山	天童山
御影山	穀聚山
妙高山	蹲踞山
秘密■祇金龜也	密雲山
■は王へんに余)	來集山
不盡山	四方山
養老山	仙人山
天童山	和合山
不人山	七寶山
妙高山	四面山
來集山	蓮華峯
秘密■祇金龜也	和合山
不盡山	仙人山
養老山	不盡山
天童山	天童山
不人山	不人山
妙高山	妙高山
來集山	來集山
秘密■祇金龜也	秘密■祇金龜也

「富士山禅定図」の頒布

- ・『東街便覧図略』という書物にそのヒントが
- ・天明6年（1786）に、尾張藩士の高力猿猴庵という人物が尾張から江戸に向かう道中の様子を挿絵入りで紹介したもの。
- ・「元吉原」の項

「富士山禅定図」の記載事項②

- 頂上八葉獄

一ノ獄
内院両界
阿弥陀
地藏
中央
曼陀羅
胎藏
如來
大日
二
三
四
五
六
七
八
寶生如來
文殊菩薩
藥師佛
彌勒佛

「富士山禅定図」の頒布

- ・本文内の記載
- ・「此所にて富士山禅定の図并富士山略縁起を売店あり。家名を富士見屋といふ。其図中に曰。仁王六代孝安天皇九十二庚申年湧出云云。亦富士の異名を挙たり。穀聚山蹲踞山秘密■祇金龜也御影山妙高山來集山天童山不人山四方山般若山養老山不盡山不老山四面山仙人山影向山七寶山和合山後山蓮華峯等也其外八葉九尊の仏菩薩ことごとく誌せれと、事繁ければ爰にもらしむ。（以下略）」
(■は王へんに余)
- ・木版手彩色「富士山禅定図」と同じ記載
- ・本資料は、高力猿猴庵が手にとったものか
- ・店内に懸けられた図にも注目

「富士山禅定図」の颁布



紙本着色「富士山禅定図」

「富士山禅定図」の発行意図

- ・村山興法寺が中心にえがかれている、また、ほぼ同じ図で版元が村山の記載になっているものの存在
→村山興法寺が主体となって発行したもの
- ・街道沿いで販売している
→登山者が手に入れて活用するためというよりも、旅人の地元で広めてもらうため
- ・登山道や山中の信仰施設以外にも様々な記載が
→富士山への参詣者にとって、登山がすべてではない
→富士山の南麓一帯が一つの信仰空間として認識されていたのでは

参詣者が見た信仰空間

- ・江戸時代の富士山への参詣の様子については、さまざまな資料から知る事ができる。
- ・道中日記
『富士の道の記』（北口）、『大君の都』（表口）
田曾浦の「道中記」（須山口）
- ・地誌
『駿河国新風土記』（表口）
- ・絵画
『富士山道知留邊』、『富士山真景之図』、
『富士山明細図』（いずれも北口）
- ・富士参詣道中歌
伊勢・志摩地方で歌い継がれてきたもの（表口）

富士参詣道中歌

- ・三重県度会郡南伊勢町（旧南勢町）および三重県志摩市（旧大王町）には、富士参詣の道中の歌が受け継がれている。
- ・村山興法寺に認められた修験者が活動していた場所
- ・地元での海上安全／大漁の祈願の際に歌われる
- ・富士山参詣は成人儀礼の一つ

場所	旧町名	名前	連数
田曾浦	南勢町	富士山登拝道中歌	44
切原	南勢町	浅間山道中唄	17+4（お鉢めぐり歌）
波切	大王町	富士参りの歌	44
畠名	大王町	富士まいり音頭	16
船越	大王町	富士参りの歌	5

『村山浅間神社調査報告書』より作成

「富士山禅定図」と参詣道中いま・むかし

- 23 駿河の静岡うち過ぎて 江尻興津や清見寺
- 24 三保の松原前に見て 田子の浦とはこれとかや



三保の松原

静岡県 世界遺産センター整備課提供



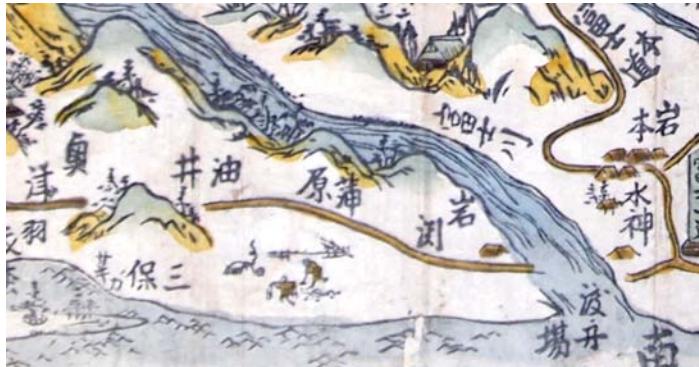
清見寺



清見ヶ関跡

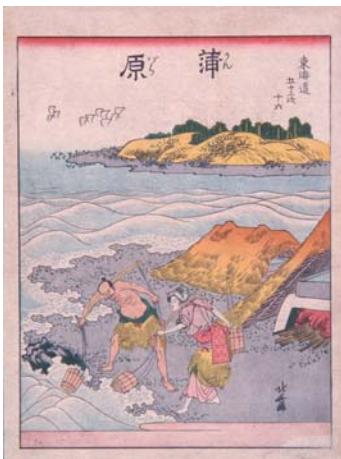
「富士山禅定図」と参詣道中いま・むかし

- 25 由比を通れば蒲原泊まり お富士川にて
垢離をかく



薩埵峠からの富士山
宮崎泰一氏提供

田子の浦（興津～蒲原）の塩作り



東海道五十三次 十六 蒲原



五十三次 興津



興津周辺の海岸



岩淵の常夜灯



「富士山禅定図」と参詣道中いま・むかし

- 26 石はなけれど岩本の大宮宿場にはやついて



水神の森



「富士山道」の道標



大梧庵 観音堂



富士山本宮浅間大社

静岡県 世界遺産センター整備課提供

「富士山禅定図」と参詣道中いま・むかし

- 27 村山宿場にはやついて 不動の滝にて垢離をかく



村山浅間神社

静岡県 世界遺産センター整備課提供



村山浅間神社境内の水垢離場



村山浅間神社開山式での水垢離

「富士山禅定図」と参詣道中いま・むかし

- 29 中宮の八幡ふし拵み 一の木戸にとさしかかる



中宮八幡堂跡



瀧本跡か



ヤクバノ木戸があった
室大日堂跡か



現在の六合目

「富士山禪定図」と参詣道中いま・むかし

- 31 八合室にて夜をくろめ 御来光おがむありがたや
- 32 大日峰に上がりてみれば 鐘のひびきでいさみたつ
- 33 数珠と袈裟をば大日様へ かけたこころのありがたや



富士山の御来光



岩淵鳥居講中により、平成16年に奉納された鳥居



岩淵鳥居講中により大正9年（1920）に奉納された鳥居



浅間大社奥宮

「富士山禅定図」と参詣道中いま・むかし

- 下山して来た参詣者は、村山から大宮へとは向かわず
に、岩本へ
- 潤井川と凡夫川の
合流点（龍巖淵）
にて、精進明けの
垢離をとる
- 善光寺などに向か
う事例も

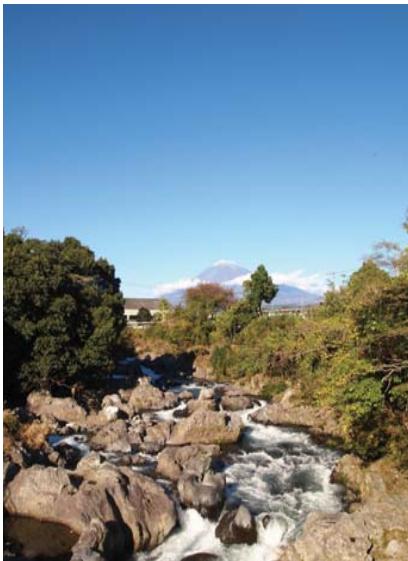


「駿河記」潤井川の項

- ・「大宮浅間の御手洗川合流して瀧戸に至て磐石かさなりて山の如し。岩間に落る白浪は井堰にかかる雪かと疑ふ。此瀧の下を凡夫川と云。上方より富士参詣の道者爰にて垢離を取り、精進を退て國にかへるといへり。」



絵葉書『富士十勝 其五 龍巖淵ノ富士』



現在の龍巖淵

おわりに

- ・「登山絵図に描かれた風景＝参詣者が見た風景」は、形を変えているものや、今は失われたものがあるが、ある程度はたどっていくことができる。
→構成資産の関連性や参詣道を明らかにする一つの手段
- ・様々な絵図に描かれている内容を比較する事により信仰空間の変遷を明らかにすることができる。
→信仰の対象としての富士山の変容
- ・登山絵図に描かれた風景をこれからどのように活かしていくか。